



日本オプトメカトロニクス協会新会長に就任して

コニカミノルタ株式会社 代表取締役社長 兼 CEO
山名昌衛 YAMANA, Shohei

この度、本会の2020年度定時社員総会にて会長に就任いたしました山名でございます。

本会に關係する皆様のご協力を得まして事業活動を長年にわたり継続できましたことに感謝いたしますとともに、時代とともに要求が高まるオプトメカトロニクス技術の発展に尽力してまいりたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

今年度は、特にCOVID-19により協会各社のみなさまに甚大なる事業影響があったものと推察いたします。渦中におきましても企業経営を継続しておられることに改めて敬意を申し上げます。

さて、このCOVID-19の感染拡大をきっかけとし、世界観、価値観が大きく変化いたしました。そして、それがCOVID-19終息後も定着していく部分が多いのではないかと考えております。

人間中心に考えますと、現在のコロナ影響下での強制的な在宅・リモート化により生き方、働き方の見直しを迫られたことをきっかけに、今後は、生活と働き方に対して個人の自由度がより高まる世界になると考えられます。つまり、個人の趣味生活の領域だけでなく、働くということについても個々の自由度、選択が中心となる考え方、価値観が「当たり前」となる世界になるでしょう。

企業や団体を中心に考えますと、対面で行っていたビジネス行為、例えば営業やサービス、あるいは展示会といった集まり、これらをリモートで、デジタルで、といった世界に変わっていきます。そして、一番の変化は、人がFace to Faceで集まる場所としてのオフィス、の価値を改めて見直す必要があるということに尽きます。リモートワークでも実施できる仕事、やはり対面でなければならない仕事が仕訳けされ、リアルなオフィスは対面で創造的な価値を生み出すシーンを中心に活用されるのではないのでしょうか。そうでない仕事は、自宅、あるいはリモート環境下で、デジタルでのつながりを持った形で遂行されることになるでしょう。

社会全体の視点で考えますと、今回のウイルスは「目に見えない」脅威となっていると捉えることができます。目に見えないものに対する恐怖や不安から解放され、安心・安全を得るための価値やサービスといったものが今後の社会においてはより重要視され、求められるようになるでしょう。

このように変化するヒト・企業・社会のさまざまな課題を、われわれは新たなビジネスチャンスと捉え果敢に挑戦すべきではないのでしょうか。日本オプトメカトロニクス協会におきましても、この大きな環境変化をプラスに捉えていきたいと考えます。例えば、高精度カメラとCO₂センサーを組み合わせる3密状態を可視化する換気モニタリングシステムや、医療現場における肺炎画像診断リモートサービス、さらにサーマル機能を搭載した監視カメラを用いた体温検知サービスなどは、見えないリスクに対して人々に安心安全を提供する画像IoTソリューションとして、オプトメカトロニクスの技術をビジネスにつなげた例といえるでしょう。

変化するヒト・企業・社会の課題を解決するためには、進化するテクノロジーが鍵となります。日本オプトメカトロニクス協会の定款第2章第4条にも記載されておりますように、日本企業（当協会）の強みであるオプトメカトロニクスすなわち「光工学・電子工学及び機械工学の融合」を極めることが重要であり、同時に現在急速に進化している AI, 5G 等のデジタル技術との融合による新たな技術革新もまた必要となるでしょう。

さらに、もっと大切なことは、上記のような社会的な課題を解決するために「テクノロジーを使ってどうバリューに仕立てるか」と考えることです。バリューにするからこそ社会的課題が解決でき、企業の存在意義を明確にできます。今後はビジネスを展開する上で、DX(デジタルトランスフォーメーション) の考え方が必須になってくると思われまます。DX そのものはテクノロジーがベースですが、テクノロジーが「答え」ではありません。テクノロジーを磨き、いかにバリューとして形にするか。そして、最終的に「豊かな社会を実現する」ことを皆で考えることが最も重要だと考えております。

テクノロジーをバリューに昇華させるのは言うまでもなく人材です。

日本オプトメカトロニクス協会の大きな目的のひとつに技術人材育成がございます。現在、日本オプトメカトロニクス協会の注力事業であります人材育成事業におきましては、技術研修会をはじめ多くの技術講座、各種セミナーを開催しておりますが、今後はテクノロジーそのものを深く掘り下げるとともに、テクノロジーを如何に顧客や社会のバリューに仕立てるかについても取り組んでいきたいと考えております。

今後とも会員の皆様のご協力とご支援をお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。